

ジオシンセティックス論文集の 原稿作成例

補強一郎¹・排水次郎²・John BARRIER³

この和文原稿作成例は、ジオシンセティックス論文集の論文原稿を作成するために必要なレイアウトやフォントに関する基本的な情報を記述しています。この部分に論文概要を記述してください。タイトル部分のマージンは、本文の左右マージンよりもそれぞれ10mm ずつ大きく取ってください。アブストラクトのフォントは明朝体 9 pt を用いてください。和文の場合でも、句読点には、カンマ「, 」とピリオド「. 」を用いて下さい。アブストラクトの長さは7行以内です。アブストラクトの後に1行空けて、キーワードを3~5語、明朝体 10pt のフォントで書いて下さい。！提出についての注意！ 提出は、PDF化したファイルを提出してください。なお、ファイル名は“発表者氏名”（例：補強太郎.pfd）をお願いします。

キーワード：論文原稿作成例，レイアウト，スタイル，フォント

1. 論文構成

論文は、最大8ページ、偶数ページとします。論文原稿は、タイトル部分、著者所属部分そして論文本体部分から構成されます。

(1) タイトル部分

タイトル部分は、50文字×52行に設定して下さい。論文タイトル、著者名、論文概要、キーワードは以下の通りに書いてください。

(上枠から1行空け)

タイトル：ゴシック体20pt フォント，センタリング

(2行空け)

著者名：明朝体12pt フォント，センタリング

(1行空け)

論文概要：明朝体9pt フォント，8行以内

(1行空け)

キーワード：明朝体10pt，3~5語程度

(2行空け)

(2) 著者所属部分

著者所属部分は、著者と所属とは肩付き数字で対応づけ、明朝体9ptを用いて、会員種別、所属、役職、連絡先住所の順に論文の1ページ目の下段に記述してください。

(3) 論文本体について

論文本体部分は、25文字×52行×2段組みに設定して下さい。段と段の間のスペースは約6mmとします。論文本体部分のフォントは明朝体10ptを用いて下さい。

和文の場合でも、句読点には、カンマ「, 」とピリオド「. 」を用いて下さい。

(4) マージン

全てのページのマージンはこのサンプルにありますように上辺20mm，下辺25mm，左右ともに20mmに設定してください。タイトル部分の左右のマージンは、本文の左右のマージンよりもそれぞれ10mm ずつ大きくとって下さい。

2. 見出し（見出しが1行以上になる場合にはこの例のようにインデントして折り返してください）

(1) 見出しのレベル

論文は章、節、項から構成してください。それぞれの見出しの数字の記述は次のように統一します。

章：1.，2.，3.・・・（全角）

節：(1)，(2)，(3)・・・（半角）

項：a)，b)，c)・・・（半角）

¹正会員，A大学大学院工学研究科 建設環境工学専攻，教授（〒160-0063 東京都千代田区神田2-23 菅山ビル4F）

²特別会員，B株式会社，技術開発部（〒239-0811 横須賀市走水2-25）

³Member of IGS, IGS corp.

章の見出しはゴシック体11ptフォントを用いて下さい。章の見出しについては、上を2行、下を1行空けて下さい。

(2) 節の見出し

節の見出しはゴシック体10ptフォントを用いて下さい。また、見出しの上だけに1行程度のスペースを空けて下さい。

a) 項の見出し

項の見出しはゴシック体10ptフォントを用いて下さい。項の見出しの上下には特に空行を挿入する必要はありません。

3. 数式および数学記号（数学記号の説明なし）

数式は以下の例に示すようにセンタリングして下さい。

$$G = \sum_{n=0}^{\infty} b_n(t) \quad (1a)$$

$$F = \int_{\Gamma} \sin z dz \quad (1b)$$

論文本文中での式の呼称は、式(1)、式(2)、式(3)、・・・のようにします。

4. 図表

(1) 図表の配置

図表は、本文中の引用個所に近い位置に配置して下さい。

(2) 図表中のタイトル

図表中の文字や数式の大きさが小さくなり過ぎないように注意して下さい。特にキャプションの大きさ(9pt)より小さくならないようにして下さい。表のタイトルは表の上に置いてください。

(3) 本文中での図表の引用

論文の本文中において図表を引用する場合には、図-1、図-2、・・・、表-1、表-2、・・・、のようにゴシック体にして下さい。

5. 参考文献の引用とリスト

(1) 参考論文のリスト

参考文献は、本原稿作成例に示すように原稿論文の末尾にまとめてリストとしてください。なお、参考文献は出現順に番号を振ってください。参考文献のリストの番

表-1 表のキャプションは表の上に置く。このように長いときはインデントして折り返す。

資料番号	高さ h (m)	幅 w (m)
1	1.45	0.25
2	1.75	0.40
3	1.90	0.65

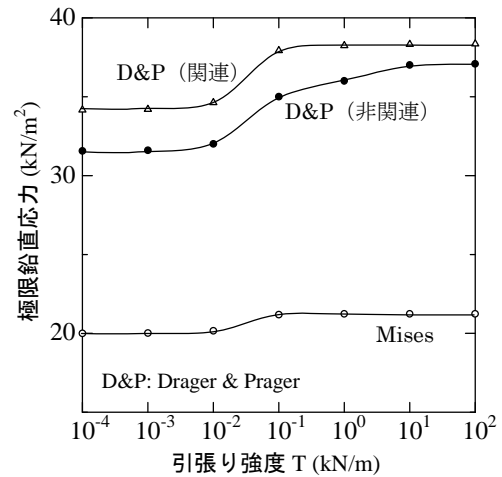


図-2 図のキャプションは図の下に置く

号は、1), 2), 3)・・・のようにして下さい。また、参考文献リスト中の文字の大きさは9ptとして下さい。

(2) 参考文献の引用

本文中で参考文献を引用する場合には、原稿末尾の参考文献リストの番号にしたがい、ここに示すように¹⁾上付き右括弧付き数字で指示します。

6. 脚注および注

脚注や注はできるだけ避けて下さい。本文中で説明するか、もしくは本文の流れと関係ない場合には付録として本文末尾に置いて下さい。

7. 最終ページのレイアウトと英文要旨

最終ページには英文のタイトル、著者名および要旨を横1段組で書きます。このサンプルにあるように、本文や参考文献リストまでの2段組部分の左右の柱の高さをほぼ同じにし、10 mm程度の空白を入れて英文要旨を配置します。英文要旨部分の幅はタイトル部分と同じく本文よりも左右を10 mmずつ狭くします。(見本中の説明によれば、タイトルと著者名は12ptでセンタリング、要旨は10ptで7行以内、フォントはTimes-Roman)

置くこと。

8. 英文論文

英文で執筆される場合、フォントの大きさは和文論文の場合と同じに、フォントの種類はTimes New Romanとします。また、論文末の論文要旨は和文とし、そのスタイルは、7. に記載した英文要旨のスタイルを参考にして下さい。

謝辞：「謝辞」は「結論」の後に置いて下さい。見出しとコロンをゴシック体で書き、その直後から文章を書き出して下さい。

付録 「付録」の位置

「付録」がある場合は「謝辞」と「参考文献」の間に

参考文献

- 1) Hill, R.: A self-consistent mechanics of composite materials, *J. Mech. Phys. Solids*, Vol.13, pp. 213-222, 1965.
- 2) Blevins, R.D.: *Flow-Induced Vibration*, 2nd ed., Van Nostrand Reinhold, New York, 1990.
- 3) Kamiadakis, G.E, Orszag S.A. and Yakhot, V.: Renormalization group theory simulation of transitional and turbulent flow over a backward-facing step, *Large Eddy Simulation of Complex Engineering and Geophysical Flows*, Galperin, B. and Orszag, S.A. eds., Cambridge University Press, Cambridge, pp. 159-177, 1993.
- 4) ファン, Y.C.: 固体の力学/理論, 大橋義夫, 村上澄男共訳, 培風館, 1970.
- 5) 赤木俊允: ジオシンセティックス使用量のアンケート調査結果, ジオシンセティックス技術情報, Vol. 13, No. 1, 国際ジオシンセティックス学会日本支部, 1997.

PRINT SAMPLE FOR JAPANESE MANUSCRIPT FOR JOURNALS OF IGS-JC

Ichiro HOKYO, Jiro HAISUI and John BARRIER

This file shows the format of manuscripts for Geosynthetics Engineering Journal issued by Japan Chapter of International Geosynthetics Society (JCIGS). English version of abstract should be written in this space. The title should be placed with margins at both sides 10 mm larger than those of the main text. The abstract should be written with a font size of 9 pt, and its length should be no more than 7 lines. Three to seven keywords should be presented with a font size of 10 pt. after the abstract followed by an empty line.

KEYWORDS: Format, Abstract, Geosynthetics Engineering Journal